

令和7年度 第3回 学校運営協議会

令和8年1月30日 15:30～

議事録

校長より

(1) 令和7年度学校経営計画について

- ・年度当初からの変更はなし
- ・自己評価の点
→概ね目標達成ができています。
働き方改革という点で教員の残業時間5%減を目標としていたが3%減となった。

(2) 令和8年度学校経営計画について

- ・令和7年度から概ね変更なしであるが、「3.自主性の向上と安全安心な学校作り、イ」
→すでに目標達成できているため、新たに変更を行った。
- ・この3年間で相談しやすい教員であると生徒からの評価も上がっている。
- ・該当生徒の母数にもよるが、帰国生からの日本語サポート満足度77%以上を維持
- ・目標設定については、現在数値が出ていないところもある。
→数値が出たのち、それを上回る値を設定する予定。

(3) 学校教育自己診断アンケート

- ・主語を「学校」と「教員自身」をはっきりさせた上でアンケートを実施。

<教員>

【評価が良かった項目】

- ・どのアンケートも概ね前年度と同じ、もしくは上昇している。

【改善の余地のある項目】

- ・数値として、8割を切っている項目が4つ
→設問2: 自習に向けての教材提供
→設問6: 探究活動の取り組み。改善の余地がある。
→設問15,17: 教員間の労働体制・環境について。管理職で改善予定

<保護者>

【評価が良かった項目】

- ・設問6,9,20: 保護者の相談に適切に対応している
- ・進路面での情報提供の項目も上昇。

【改善の余地のある項目】

- ・部活動の項目17,18: 77.3ポイントに低下

<生徒>

【評価が良かった項目】

- ・項目12：進路関係の情報提供95.1%かなり高い。
- ・項目13：いじめの項目についても評価は上がっている。
- ・項目：生徒指導も4ポイント上昇。生徒指導がより適切にできている。

【改善の余地のある項目】

- ・設問28：週あたりでの授業以外での学習時間
→前年比較が4ポイント低下している。いかに学習の習慣を身に付けさせるかが課題。

【質疑応答】

Q:兼子様：毎回全学年対象で実施しているのでしょうか。

また、学年で大きく変化したりしないのでしょうか。

A:教頭：実施しています。また、基本的には似たような数値が出てきます。

(4) 取り組みの進捗報告（分掌長より）

進路部長：

- ・自己診断アンケートにおいてポイントが上がっていることについて
進路HRを外部委託から教員からの講義を行ったことも影響していると考える。
- ・昨年度から1、2年生でスタディーサポートを利用している。
→模試の結果のみでなく、生徒の学習状況や学校・自宅での生活について学校全体で把握し、指導する体制作りを整えているところである。
- ・3年生について、すでに公立大からの合格が増えている。国公立の受験者増。地方にも視野を広げられている。一方で、年内入試で受験を終了させる、科目数を減らして受験をする生徒が増加している。学校全体で授業や部活から頑張る力を養っていく。

校長：

【生徒の取り組みについての報告】

- 国際探究班の取り組み
- インターナショナルフェスティバルで2年スピーチコンテスト2位、1年レシテーションコンテスト1位。

●国際探究班（生徒）による発表（泉北レモン、池ノ上班）

質疑応答

・兼子様より

Q:食べられるカップの制作について苦労したり、工夫されたことはありますか。

A.泉北レモンの黄色を活かすために、焦げなどで黄色が表現できないように制作した。

・田中様より講評

カップが食べられるとなると、受け渡しの際に素手で渡せないでプラスチックに包むとなるとさらにゴミが出てしまうというところまで考えて開発していただけたらいいと思います。

・古橋様より

Q:マーケティングが必要になっていくと思いますが、消費者は食器を食べることへの抵抗感はないのか。

A.食器を捨てることが当たり前になっていることに疑問を感じたのが始まり。この 当たり前という考えを改めて、食器を食べてみるということが面白いのではない かと考えて活動を始めた。

・中村様より

Q:商品の渡し方はどうするのか。

A:まだ試行中。できるだけゴミの排出を少なくするために、手渡しも選択肢。

・校長より

スプーンを100個用意する予定だったが、多めに作って3月のイベント以外にも利用できればと考えている。

(5) 全体に対する質疑応答

● 質問：(兼子様より)

学習時間へのアプローチについて、具体的な案はあるのでしょうか。

● 回答 (進路部長：島名先生)

スタサポを導入し、数値化を行う。教員からも声かけを行って学習時間を増加させていきたい。

生徒のやる気を引き起こさないことには始まらないと考えている。

授業を大切にすることはもちろんであるが、部活やその他の学校生活も活発に行った上で、探究、学習活動に活路を見出してほしい。

● 質問：(兼子様より)

生徒は家庭学習以外は何をしているのか。

● 回答 (島名先生)

スマホでSNSをしてゲームをしている。

➡ (中村様)生活習慣病になっている。見ないと気が済まないという状況。内発的動機付けが必要になる。

➡（兼子様）学習時間を増加できれば成績が上がったという体験ができれば変わるかもしれないが、現実はなかなか難しい。

● 質問：（田中様より）

第2回で議題に挙げた、「国際文化科が特色を持てていないように感じる」ということに対して何か案などは出ているのか。

● 回答 （富田先生）

校内の雰囲気・ルール・国際交流の機会。校内の生徒の服装や、海外留学生が多いなどの面では「異国」を感じることはできないが、今年度は昨年度と比べて万博もあり、さまざまな交流ができた。2箇所研修に行けた。本校主催ではないが業者からの案内のあった、カナダの語学研修プログラムを12月、マルタの研修プログラムを3月に予定。大阪府とECCのコラボで留学体験等40名の生徒が関わった。関西大学主催の台湾留学生徒の交流プログラムも案内・参加生徒も数名。敏感な生徒は外向きな面でいうと積極的に外部に発信できていた。

➡（中村様）泉北は2つの学科があるので、専門的な特色をぜひ増やしてってもらいたい。また、校内の校則について変更等はあったりするのか。

● 質問：（田中様より）校則は変わりますか。

● 回答 （山本先生）

校則の前に学校生活において生徒本人が自覚を持って置くべきだと思う。人生の話などもさせていただいている。必ず生活と学力・進路に関わりはないと思うが、生活を正すということは全ての面につながってくると考えている。時代が校則等を緩めるという流れになっているが、人として正しくあるということを軸に泉北高校では生徒指導を実施している。

● 質問：（中村様より）

実際この時代に合わせては変えていかないといけないと思う。生徒が作った校則を生徒が守っていくという形にしていくべきだと思う。

アンケート項目：（防災）では教員96.5%だが、生徒80%切っているという乖離。生徒が重要性や予測不可能であることなどを理解できていない可能性を、教員から伝えていくべきだと思う。

● 質問：（古橋様より）

泉北高校ではスタサプ、ICTを導入しているが、「チャート式」はわかりやすい。辞書感覚でダイレクトに答えを確認できるがICTはそうでないように感じている。実際、教員の肌感覚としてICTを利用した学習は成績向上につながっているのか。

● 回答 （島名先生）

情報やツールが多すぎて処理ができないなど、上手に利用できている生徒が少ないのではないかと思う。生徒の状況をみて、適切な利用ができるように指導することが大切であると感じている。（提案：中村様より）スマホと学力の関係を自分たちで研究することは、心や習慣にどう影響するのか。そのようなことを文理で協働で研究させるのはどうか。誘導できないか。

● 質問：（中村様より）

今回の共通テストが難易度が上がっていたが、今後の共通テストはどのように変わっていくと
思われているか。

- 回答 (池ノ上先生)

平均 ■点/最高 ■点。一方、リーディングはすごく簡単になっているのでシフトされている。国
際文化科の生徒は共通テストを受けなくなっている。スタサポでも補い切れる内容なので
私大と共通テストの内容がどんどん違ってきているので生徒は何を目指して勉強するのか迷って
いる。

- 質問：(兼子様より) 学習時間に対して何らかの手だてをしてあげないと。可能であれば外部の
講師の方を呼んで講演をしてもらうなど。

- 質問：(兼子様より)

アンケート結果について分析は実施しているのか。

- 回答 (田中先生)

年度末に分析結果を紙にすることはある。それを次年度に校長が経営計画に反映させるように
している。

- 講評：(中村様より)

生活が充実している 95%の生徒が回答しているので学校から愛されていると感じている生徒が
多い。今の時代では私立専願にする生徒が多い中、これは泉北高校の強みになると思う。

(校長より)

今回の意見を学校経営計画(R8年度)に反映させる。

アンケートについて、誰がどのように答えたのかがわからない使用になっている。

スタサポのアンケートはそれがわかるので、活用していく予定。

池ノ上tがフィンランドの学校との提携に向かう予定。

昨日、エキスポ、1億円プロジェクトに国際関係学科各行2名ずつ40万円程度の補助をいただいて参
加できるプロジェクトに参加する予定。

フィリピンもコロナ以降語学研修の利用者が減っている様子であるため、その利用も考えている。

(教頭より)

本年度は終了。

先生方にはまた後日連絡させていただく。